



京都大学における研究データ管理の 取り組みとDMP作成支援



京都大学 情報環境機構 データ運用支援基盤センター
小野 英理

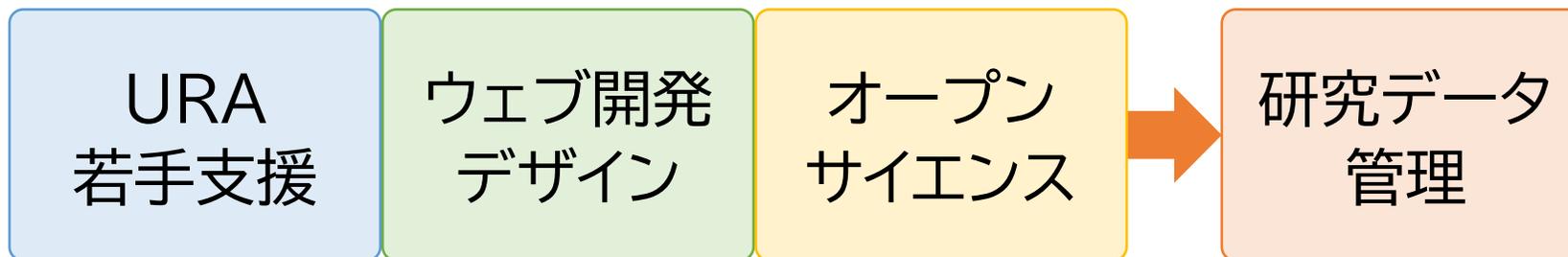
KYOTO UNIVERSITY

京都大学



自己紹介

- 2015まで | 霊長類研究で博士(理学)、ウェブ・デザイン制作
- 2015-2018 | 京都大学次世代研究創成ユニットURA
 - ・ 若手研究者支援、グラフィックデザイン支援(申請書の図など)、オープンサイエンス勉強会
- 2018-2021 | 京都大学情報環境機構 特定講師
 - ・ Web戦略室(大学公式ウェブサイトの開発など)
- 2021-2024 | 京都大学情報環境機構 助教
 - ・ 部局等ウェブサイトの開発支援など
- 2024-現在 | 京都大学情報環境機構データ運用支援基盤センター 准教授
 - ・ 研究データ管理



本日の内容

- 研究データ管理(RDM)関連の国内、学内の動向
- 京都大学におけるRDM関連の取り組み
- データ運用支援基盤センターの設置
RDMコンサルタントグループの活動

京都大学におけるRDMの取り組み経緯や最近の動き、
問い合わせから見える課題をお伝えします

RDMに関する国内政策動向

- 2013 G8科学大臣会合
研究データのオープン化を確約
- 2016 内閣府「第5期科学技術基本計画」
オープンサイエンスを推進
- 2018 内閣府「統合イノベーション戦略」
データポリシー策定のガイドライン
- 2021 内閣府「第6期科学技術・イノベーション
基本計画」
- 2024 統合イノベーション戦略推進会議
学術論文等の即時OA基本方針
- 2024 科研費採択後にDMP作成が
求められる(提出不要)
実施後にメタデータ提出

京都大学の動き

- 2015 研究公正推進アクションプラン 開始
- 2015 オープンアクセス方針 策定
- 2020 研究データ管理・公開ポリシー 策定
- 2022 ICT基本戦略2022 策定
RDMのプラットフォームと体制を整備
- 2024 情報環境機構 改組
データ運用支援基盤センター 設置
- 2025 RDM Drive 正式サービス開始

図書館による研究データ公開支援 2019～

図書館機構ウェブサイトにてオープンアクセスやRDMに関する支援情報を提供

- 研究データマネジメントとは
- KURENAIでの研究データ公開
- DMP作成支援
 - JSTなどいくつかの研究助成機関ごとのDMPに関する情報を掲載
 - DMP作成支援ツール(DMPOnline、DMPToolなど)の紹介

研究データ管理・公開ポリシー(抜粋) 2020～

■ 研究データ

- 本学の研究活動の過程で研究者によって収集または生成された情報で
デジタル・非デジタルを問わない

■ 研究者の責務

- 研究データを適切に管理・保存する
- 研究データの価値を守るため、それぞれの研究分野における法的および倫理的
要件に従って研究データ管理を実施する

■ 大学の責務

- 研究者が研究データ管理を行う権利と責務を有していることを認める
- 研究データを可能な限り社会に公開し、その利活用を促進する
- 研究データ管理・公開を支援する環境を整える

ポリシーの実効性を高めるための組織整備

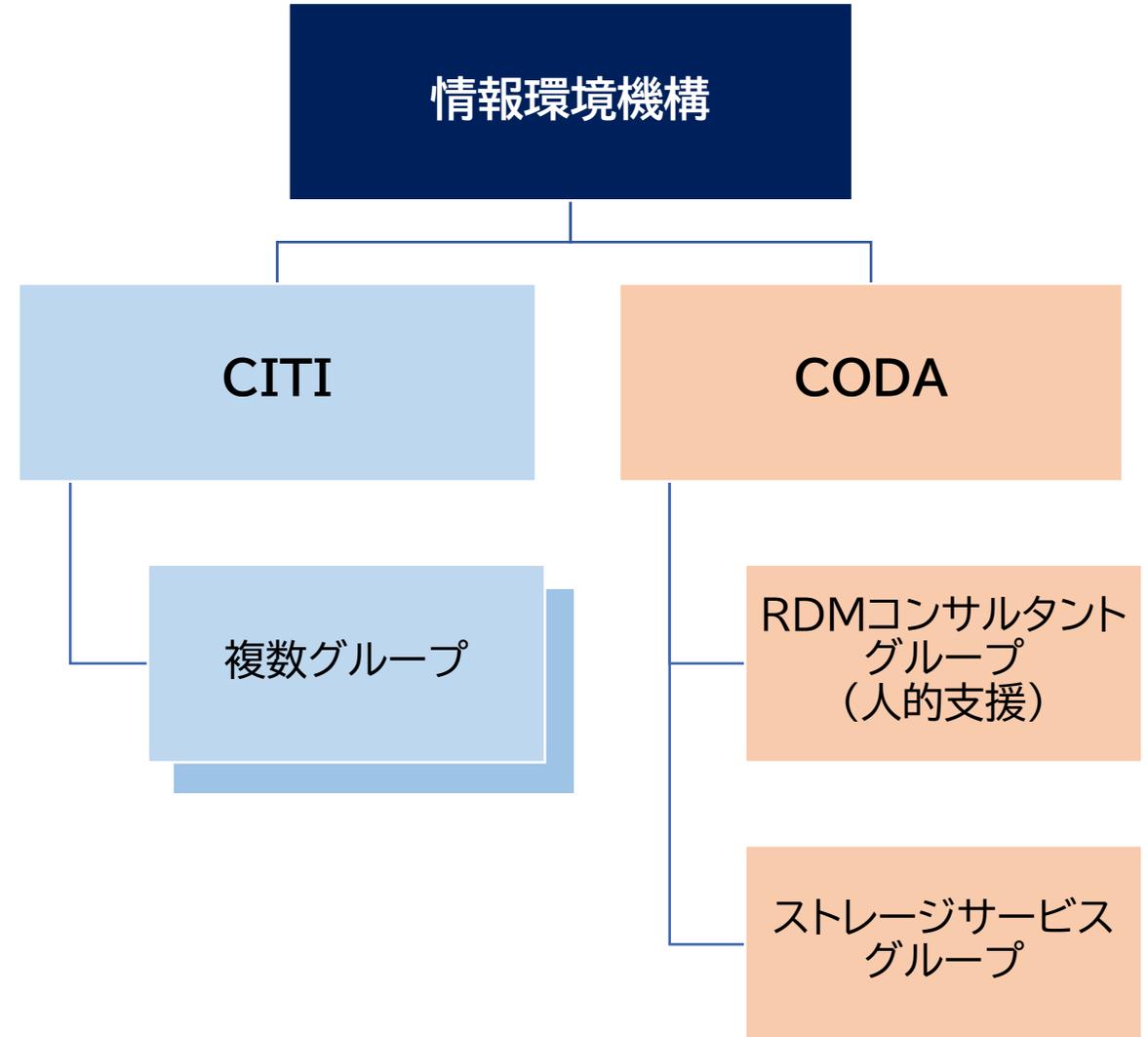
- ポリシーに従ってRDMを実施することが重要
- 研究データ管理・公開促進策定ワーキンググループ（2020/07～）
 - 2020年度 | 部局等における研究データ管理・公開に関する実施方針策定のためのガイドライン・ひな形の作成(2021/03/15)
 - 2021年度 | 研究データ管理・公開を支援する学内体制の整備
 - 研究者情報整備委員会: 全体の方針決定
 - RDM専門部会: 研究者情報整備委員会の方針に基づき、具体化
 - 情報環境機構: 必要なサービスを実現するための基盤整備
 - 附属図書館: オープンサイエンス・オープンアクセスのためのサービス
 - 学術研究支援室: 研究データ管理計画(DMP)の作成支援(図書館と)
 - 研究推進部: 研究公正関連の支援
 - 総務部・産官学連携本部: 知的財産権、個人情報関連
 - 総合博物館: 非デジタル研究データの公開
 - 高等教育院: 学生への啓発・教育

京都大学 ICT 基本戦略2022(抜粋)

- データ運用のための環境整備とシステム構築
 - ・ 展開する学術全ての分野におけるオープンサイエンスへの貢献
- 場所的・時間的制約のない多様な教育方法を可能にする情報環境基盤の構築
 - ・ 学生がおかれた条件にかかわらず利用可能な教育環境の提供
- 新たな研究の展開を可能にする情報環境の構築
 - ・ データ駆動型研究のための計算資源の整備
- 新たな情報環境基盤を支える組織の整備

情報環境機構の改組 2024

- IT基盤センター [CITI]
 - ・ 従来のITインフラを整備・運用
(サーバやネットワーク等)
- データ運用支援基盤センター [CODA]
 - ・ RDMの仕組み構築



研究サイクルとデータ管理・利活用のための支援



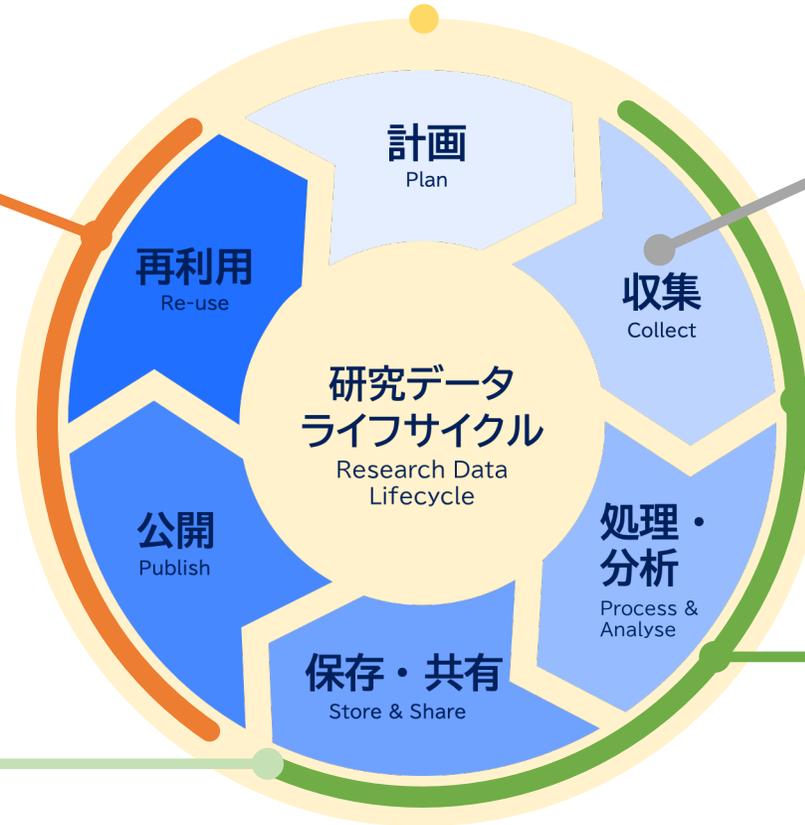
RDM関連サービス

図書館機構

京都大学学術情報リポジトリ
KURENAI 紅
Kyoto University Research Information Repository

• DOI付与 

コンサルグループによる支援



情報環境機構

実験データ転送デバイス
(試行)

Raspberry Piベース

電子実験ノート(試行)

オブジェクトストレージ
• Amazon S3互換

RDM Drive

• オンラインストレージ

GakuNin RDM
(NII提供)



GakuNin RDM



OSF

2025年5月開始

RDM Drive

- オンラインストレージ
(Nextcloudベース)
- 目的: 研究プロジェクトメンバーが
セキュアにデータを保存・共有
 - ・ 研究室のファイルサーバを置き換える
- 利用者: 教職員、学生、
学外共同研究者
(管理者は本学教職員のみ)



- RDM Drive とは?
- 研究データを保存・共有するためのWebブラウザ対応ファイルストレージ
 - 学外共同研究者や学生ともデータ共有が可能
 - 学内に設置したデータサーバを利用

\ 2027年度末まで /
利用料金が無料!



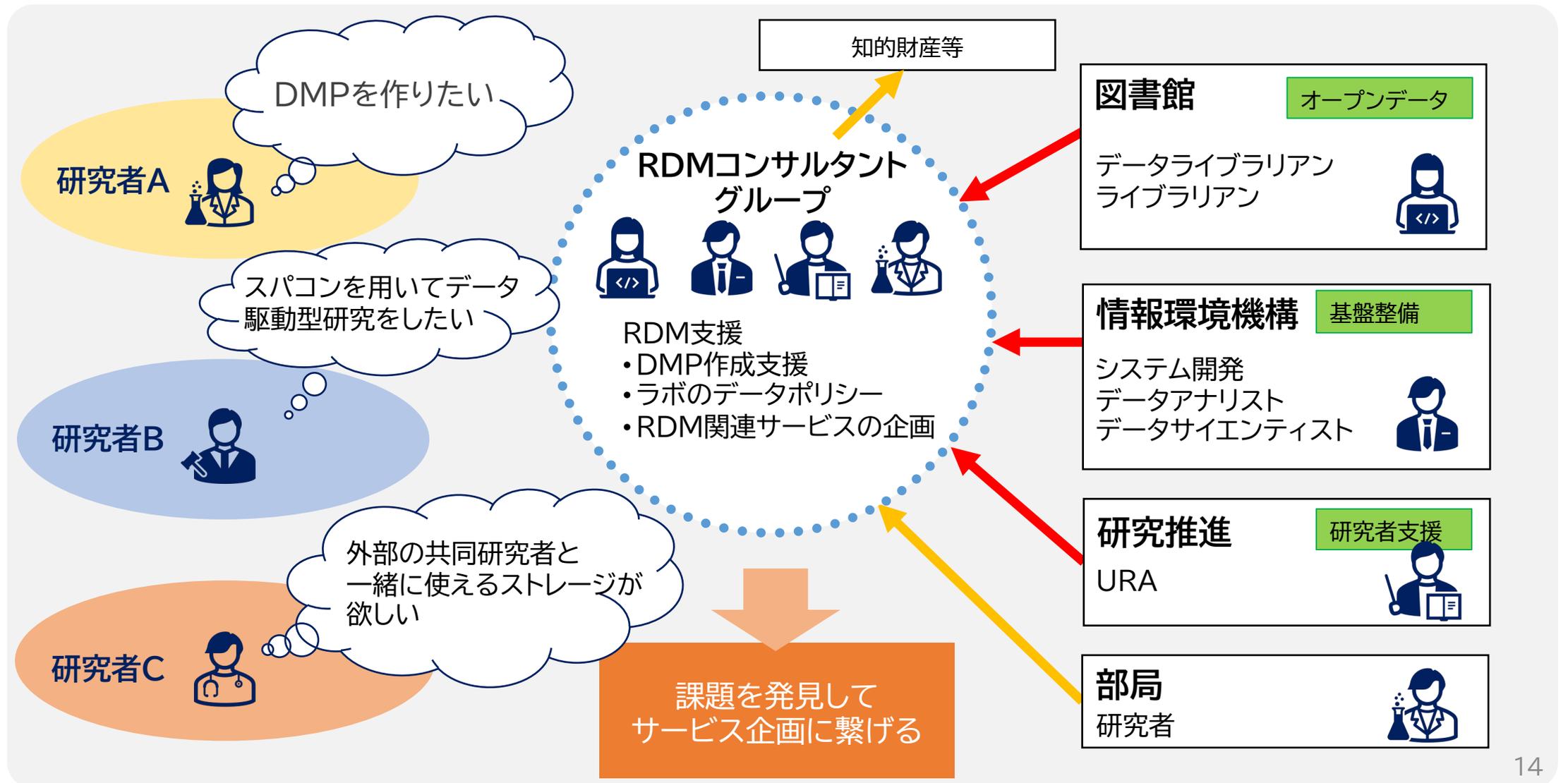
RDM Drive サービス紹介 (京都大学情報連携機構 WEB サイト)
<https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/storage/rmdrive>

RDM Driveの特徴

- 柔軟なプラン(2TB~20TB)
 - 27年度末まで無料提供、その後有料化を予定(約6,000円/TB・年)
- 大学のアカウントで利用可能
- 大学のスタッフ(技術職員)がサポート
- 学内にストレージを設置
 - 個人情報など機微情報のデータ管理



RDMコンサルタントグループの概要



RDMに関する学内ヒアリングを実施

- 2023/06～現在までに 18研究室/組織を訪問
 - ・ 工、理、医、ナノテク、メディア、防災
- ヒアリング内容
 - ・ 研究室での日常的なデータ管理
 - ・ 企業との共同研究におけるデータ管理
 - ・ 装置出力データの自動管理

研究データ管理・公開セミナー

- 学内研究者向け
- 現在までに2回開催
 - 第1回 | 2025年3月
テーマ: RDMの現状と学内の支援体制、オープンアクセス等
 - 第2回 | 2025年6月
テーマ: 研究データの収集・共有・公開
- 各回100名前後が参加
- 終了後に資料、動画を公開

RDMウェブサイトを公開

<https://rdm.kyoto-u.ac.jp/>
(研究データ管理・公開促進WGによる既存サイトを引き継ぎ)

KYOTO UNIVERSITY

京都大学における研究データ管理 (RDM)

Search

RDMとは

ポリシー・ガイドライン

サービス

1. データマネジメントプラン
2. 利用・収集
3. 保存・共有
4. 公開

サポート・ご相談

最新情報

データを適切に管理し、研究を活性化する

研究データ管理 (Research Data Management, RDM) とは、学術・研究で生じるデータのライフサイクルを円滑に進めるための活動です。

研究データ
ライフサイクル
Research Data
Lifecycle

計画
Plan

収集
Collect

処理・
分析
Process &
Analyse

保存・共有
Store & Share

公開
Publish

再利用
Re-use

このWebサイトでは京都大学における研究データ管理に関するサービスや最新情報を提供します。

- 学内のRDMに関するポータルサイト
- 組織横断的に関連情報を提供
- 問い合わせを受け付け

RDM関連の問い合わせ

- RDMウェブサイトの問い合わせフォーム(本学構成員のみ)
 - ・ 20件…多様な質問
- メール(学外者含む)
 - ・ 5件…多様な質問
- 情報環境機構ウェブサイトの問い合わせフォーム
 - ・ 17件…サービスに関する簡易な質問

集計期間:2024年5月~2026年3月1日

※イベント関係の事務的問い合わせは除く

多様な質問(全25件)の分類

難易度	定義	質問数
低	RDM関連ポリシーやサービスに関する簡易な事実関係の確認で、1日程度で回答。	11
中	コンサルGで関係する資料等の確認や学内関連部署へ連絡・回答依頼を行い、数日から1週間程度で回答	11
高	資料等の確認や学内調整だけでは完全に解決せず、研究者と外部組織とのやり取りが発生(可能性含む)	3

中難度(11件)の内訳

■ 管理計画(DMP):3

- DMPを作成する単位は予算ごとか、テーマごとか
- 管理データとして何を記載すべきか

■ 公開:3

- データポータルサイトの構築
- KURENAI

■ 長期保存:3

- 10年保存
- 学外転出者の研究データ

■ 帰属:1

- 企業共同研究のデータ

■ 外部データベース:1

- 利用申請

高難度(3件)の内訳

■ 研究助成機関が求めるDMP

1. 当グループで当該機関の資料を確認して回答作成したが、一部内容の正確性を保証できなかったため研究者から研究助成機関に問い合わせるよう案内。

■ 論文の根拠データ

2. 学術誌のWebサイト上で研究プロトコルの公開を求められたが、本学で公開が認められるかどうか確認が必要に。当グループでは研究者とエディタのやり取りを裏で支援。
3. 根拠データの公開をエディタから求められたが、根拠データが他の著作物を元にしていた。当グループでは著作権関連の資料等を確認して回答を作成、研究者から元の著作者に連絡するよう推奨。加えて、本学の法務担当者に回答の妥当性を確認。

まとめ

- 京都大学における研究データ管理の取り組み経緯と最近の動き(データ運用支援基盤センター)を紹介
- 人的支援のため組織横断的なRDMコンサルタントグループ設置

コンサルタントグループを中心に、

- セミナー、ウェブサイト等を通じて学内に情報提供
- 問い合わせを受付け
 - ・ 最近は件数が増加している印象
 - ・ サービスの企画・改善につなげたい